



チックンベツ

教 育 目 標

たくましい身体の子

ねばり強く働く子ども

進んで学ぶ子ども

美しく豊かな思いやりのある子ども

秩父別小学校だより

10月 1号（令和元年10月10日）【発行責任者 上杉 晃弘】

心に響いた学芸会

ラグビー日本代表の躍進に日本中が熱狂して盛り上がっています。今回のラグビーワールドカップのフレーズ「4年に1度じゃない。一生に1度だ。」が印象的です。先日行われた秩父別小学校の学芸会も同じだと思います。子どもたちが、その学年で発表する劇やダンス、歌声、演奏もその瞬間にだけ観ることができるかけがえのないものです。

プロ1「はじめのことば」では、1年生の子どもたちが、ラグビーニュージーランド代表で有名な「ハカ」にのせて、すべての学年にエールを送ってくれました。「今が、燃え上がる時～。」「今が、全力を出す時～。」といったフレーズが素敵で可愛らしくもあり、力強さが発揮されていました。

プロ2「テキーラ他」では、3・4年生の子どもたちが視線を高く上げ、楽器を持ちながらスウィングする演奏は躍動感に溢れていました。そして、大きく口を開け元気に弾むような歌声に心が清々しくなる思いがしました。

プロ3「MOMOTARO～The Peach Boy」では、5年生の子どもたちが英語から日本語へのスムーズな流れからテンポよく進行するとともに、一人ひとりの絶妙な間の取り方が良かったです。また、会場の笑いを引き出すためのユーモラスな演技が印象的でした。

プロ4「はだかの王様」では、1年生の子どもたちが持ち前のかわいらしさを全開にして、大きな声で台詞を発し、情景を浮かばせる大きな動きで素晴らしい世界観を創っていました。また、自分たちの今できることをすべて発揮する姿に心が温くなりました。



1年生「はだかの王さま」



5年生「MOMOTARO」



2年生「MUSIC STATION」

プロ6「MUSIC STATION 令和バージョン」では、本家に負けず劣らずの映像から2年生の子どもたちに切り替わる意外性がとても良かったです。また、アイドル顔負けのキュートなダンスを披露し、観客の方々の笑顔の花を咲かせてくれました。

プロ7「シング・シング・シング他」では、5・6年生の子どもたちが、スウィングしなからの難易度の高い歌い方に手拍子を交え、そこに伸びやかなリードボーカルを投入する素晴らしい合唱には驚きました。そして、器楽合奏では、安定したリズムとともにソロパートの演出を合わせ、さすがだと感じる発表でした。

プロ8「ほんとうの宝もの」では、3年生の子どもたちの生き生きとした表情と楽しそうな姿が心に残りました。この劇は自分たちで創っているという雰囲気があり、細かい演技や印象に残る台詞の言い回しなど、頑張りが目立つ素敵な発表でした。

プロ9「サンバ・デ・ジャネイロ」では、1・2年生の子どもたちが、本当に一生懸命に取り組んでいることが伝わり、一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たし、個々の奏でる音色の合わせりから、「つながり・協力・まとまり」を感じる一体感のある発表だったと思いました。

プロ10「ポテチがこわい」では、4年生の子どもたちが、とても自然な雰囲気ですぐ日常の風景を切り取ったような面白い演技を見せていました。また、ペアでの掛け合いから生み出される子どもたちの表情が、和やかで心地よい発表でした。

プロ11「エルコスの祈り」では、さすが6年生でした。会場にいるすべての観客を引き込む迫真の演技が素晴らしかったです。また、台詞のない時もその場の情景や雰囲気表現する演技は秀逸でした。そして、劇中には、印象的な台詞がいくつもありました。「心を開くと、本当の自分を見つける。」「ありがとうって、いい言葉だね。」「一人じゃない。いつでも味方。」など気持ちのこもった台詞が素敵でした。6年生のその姿は、ステージ上で光り輝いていました。

プロ12全校合唱「たからもの」では、心に伝わる素敵な歌声にとっても素晴らしいと感じました。子どもたちの歌声は、会場に響き渡る最高のものでした。

保護者の方々には、学芸会で見た子どもたちの姿は、いかがだったでしょうか。きっと、お子さんをたくさん褒めて頂いたと思います。最後に、保護者の方をはじめ、多くの地域の方々にご覧頂き、感謝しています。



3年生「ほんとうの宝もの」



4年生「ポテチがこわい」



6年生「エルコスの祈り」